

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800102		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)		
所在地	〒623-0223 京都府綾部市豊里町福垣243		
自己評価作成日	令和2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2691800102-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	令和2年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みの人との暮らしを共に支え合い、出来る事は手伝って頂き達成感を感じて頂く支援をしています。職場環境においても、研修の充実や働きがいのある職場作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念の下開所時より継続しているホーム独自の理念を大切ににあたたく、やさしく、笑顔あふれる支援となるよう職員はチームワーク良く意見を出し合いながら日々取り組んでいます。コロナ禍で毎年参加している地域の行事やホームの夏祭りへの地域の方の参加、学生や地域ボランティアの来訪が出来ない状況ですが地域との繋がりを大切に2カ月に1回作成しているホーム通信を市をはじめ運営推進審会議参加者に直接渡し、自治会の回覧にも載せてもらいホームを知ってもらっています。利用者は洗濯物干しやゴミ出し、ホームのベランダに椅子を並べて日向ぼっこや畑仕事や収穫等を通して少しでも外気浴をしてもらい、ホームの中でも食事準備や後片付けをしたり、居室でも自分で取っている新聞を読んだり、パズルをする等ゆったりとした中で思い思いに過ごしてもらっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に作られたゆらの里理念を朝礼時に唱和をしています。職員研修の場でも唱和をして、職員全員の理念に対する共有の実践に努めています。	法人の社是や経営理念、コンプライアンスの項目と共にホーム独自の理念を朝礼時に唱和し意識付けを行っています。開設時より継続している理念については入職時に込められた思いを説明し、また折に触れて会議の中で理念について話をしています。職員は日々の支援の中で理念を念頭に置きながら笑顔に繋がるよう理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの理容室へ入居者様と出かけたり地域の文化祭に作品を展示させてもらいご入居者様と見に行ったりと交流していますが現在はコロナ感染対策で行事も中止になったり、外出も制限されている状況。	コロナ禍以前は近所の理容室の利用や地域の行事である消防訓練に利用者に参加したり、文化祭には作品の出品、秋祭りには神輿が駐車場に來たり、ホームの夏祭りには地域の方の参加がある他中学生や高校生、歌等の地域ボランティアの受け入れ等交流を図っていました。今年度は全て中止ですがホームの通信を自治会長に持参し、回覧板に掲載してもらおう等地域との繋がりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の理解をして頂くよう勉強会等地域包括支援センターと協力して行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に行っていた会議はコロナ感染対策により開催できていない為、行政確認の上で、状況報告書提出にての開催としています。	会議は通常複数の家族や自治会長、民生委員、訪問看護師、薬剤師、市職員、地域包括支援センター職員等多数の方の参加を得て隔月に開催し、利用者の状況や活動、予定、事故、職員異動の報告を行い意見交換をしています。今年度はコロナ感染症の影響で利用者状況の報告を郵送し書面会議とし、また写真入りのホーム通信でも取り組みを伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ゆらの里通信の配布や状況報告書の説明などを対面で行うことにより連携に努めています。解らないことは電話をかけるなどをして協力をいただいています。	運営推進会議開催には市職員の参加があり、ホームの現状を知ってもらっています。書類の提出や手続き等で窓口に出向き、不明な点があれば電話したり、聞きに行く事もあります。市主催の他職種研修の案内があれば参加をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は、毎月開催し、年に3回以上は職員全員対象で研修をしています。研修内容にスピーチロック、接遇マナーなど盛り込んでいます。	年に2回身体拘束に関する研修を会議の中で行い、虐待に関してや接遇マナーの研修の中でも言葉による行動制止について等学んでいます。待つてもらった場面があれば具体的に説明する等言葉掛けを工夫するように職員に伝えています。センサー等の使用も無く、玄関やユニット入口の施錠はせず、庭に出たりベランダでの外気浴等に配慮しています。	

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について職員研修を行っています。言葉使い、適正な記録のあり方など盛り込んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている方、成年後見を利用されている方もおられ、対応しています。社内でも研修があり、ケアマネ、管理者が参加して、職員研修にて共有しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項や契約の説明を丁寧にし、ご理解頂いた上で、署名捺印をお願いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の内容の提示や意見箱を設置しています。ご家族さま来訪時には、ご意見をお聞きしています。	日々の関わりの中で聞き得た利用者の食事内容や果物についての希望は献立に反映しています。家族には写真や2カ月に1回写真入りのホーム通信を送付しており、訪問時や運営推進会議時、法人の満足度調査等で聞いています。得られた意見は対応に努め、コロナ禍で面会が難しく家族の要望も多く出され、法人としてリモート面会を始めていましたが今後は感染予防を行い対面での面会を開始する予定です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご入居者様にとっての最善を最優先させつつ職員それぞれの意見にも常に耳を傾けています。事務所に職員用に意見箱の設置もしています。	毎月のユニット会議で意見を出し合い話し合い、ケアマネジャーやリーダー中心に参加出来ない職員の意見を事前に聞いています。職員は利用者の担当や身体拘束や研修、献立委員等を担うと共にレクリエーションや利用者との季節毎の作品作り等職員が主体となり取り組んでいます。年度末に管理者とリーダーで職員面談を行い、随時の面談もありその中でも意見や提案を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり随時挑戦してもらっています。必要に応じて面談の機会を持ち、思いを聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目的として、職員研修の年間計画を立てています。また近隣で開催される研修に積極的に参加を促しています。		

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者様と電話で連絡を取り合い、状況の共有をしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の意向を取り入れ傾聴し、共感することで心の交流を心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めてグループホームをご利用頂くことへの不安と一緒に感じ、ここでの生活をこまめに報告して信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付、面談時に、グループホームの説明とともに他のサービスの状況もお伝えして必要であれば紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様がその人らしく日常生活動作が出来るように声掛け一緒にできることを前向きに取り組んでいます。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の思いやご様子をご家族様にお伝えして連携を取りながらご家族様とともに一緒に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅におられた時から参加されていたひまわりの会の出席(ご家族様対応)への支援。現在はコロナ感染対策にて対応の実施は出来ていません。	コロナ禍以前は近所の方や知人、親戚、兄妹等の訪問があった際は居室でお茶を出すなどゆっくり過ごしてもらえよう支援していました。また近隣からの入居の方はホームから出掛ける先が馴染みの場所であったり、家族と馴染みのスーパーやこれまで行っていた集まりへ行ったり、自宅に帰ったり墓参り等に行っていました。現在は面会や外出が難しい状況の為今後感染症収束後に再開したいと考えています。電話の取り次ぎや毎年の年賀状は利用者を書いてもらう等の支援を行っています。	

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ居間で過ごして頂き、ご入居者様同士の日頃のやり取りに注意をし、関係性の把握に努めています。家事やトランプ等が自然と出来るような座席の配置の工夫。職員による会話の橋渡しの実施。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ対策予防にて今年度は実現できていませんが、例年6月と12月に退去された方の娘様の合唱グループボランティア様に(神戸)来て頂いてました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族と協力の上、出来る限り意向や思いに沿うように連携をとっています。	入居前に自宅や利用者の施設等を訪問し本人や家族から生活歴や趣味、嗜好、意向、身体状況を聞くと共に以前のケアマネジャー等からも情報を得ています。入居後はホームでその人らしい生活を送れるよう支援するためのツールであるセンター方式を使用し利用者の思いを聞きながら思いの把握に努めています。意思疎通が困難な場合は家族に聞いたり、身振りや表情を観ながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	傾聴や共感することでその方を深く知り情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活支援シートでご入居者様の一日を把握するとともに、心身状態の確認と残存能力を生かした支援を大切にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議でご入居者様の状況を職員間で共有し、課題があれば検討。担当者やケアマネ、リーダーで担当者会議の機会を持っています。	利用者や家族の意向やセンター方式でのアセスメントを基に介護計画を作成し、入居後は3カ月、その後は短期目標に合わせ6カ月毎に計画を見直しています。見直しの際は本人や家族の意向を聞き、モニタリングと再アセスメントを行いサービス担当者会議を開催しています。医師や看護師の意見は往診時や訪問時に聞いており必要に応じて計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見守りの中で常に個別性を考え、その人がその人らしく過ごせるように職員間で継続したケアをして介護計画に繋げています。		

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが出てきたら担当者会議を開き検討しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ対策予防のため、毎年参加させてもらっている防災訓練や文化祭、お祭りなどの行事が中止になり、参加することが出来ていません。コロナが落ち着いた暁には、地域行事に積極的に参加できるように支援していきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ、かかりつけ医に電話し判断や指示をもらい、場合によっては計画作成者、ユニットリーダーが直接相談に行くなど連携をとっています。月に一度の往診。通院介助の実施。	入居時に希望のかかりつけ医を聞いており、継続の方は基本家族対応で受診していますが、コロナ禍の現在は薬の対応や協力医に繋いでもらったり、職員が付き添い受診をしています。協力医による往診が月に1回あり、また週1回看護師の訪問があり、24時間連絡可能で体調に変化があれば指示をもらっています。また希望にそって歯科往診や口腔ケアを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にて週1回ご入居者様お一人お一人の状況確認をして頂いており、24時間体制で対応していただき、適切なアドバイスをいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や病院の相談委員様、ご家族様と必要に応じ、話し合いをし連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様には重度化された場合や終末期の対応について、医療連携についての説明を行いご理解を頂いています。状況に応じて意向の確認をさせて頂いています。	入居時に看取り指針に沿って、出来る事や出来ない事を説明しています。食事が取れなくなってきた場合は家族と相談し話し合いを重ね意向にそって支援に取り組み、ホームの協力医の場合は医師から説明してもらい、受診の場合は家族と職員が病院に同行し方針を決定しています。支援の際は家族に頻回な面会や泊り込み等の協力をしてもらい、また医師や訪問看護師と連携しチームで取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルの作成、設置。マニュアルの内容の共有の徹底及び研修の実施。緊急連絡簿の作成。		

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ対策の影響で地域の訓練にも参加できませんが、避難訓練は消防予防課に相談助言をもらいながら資料の作成や避難訓練の計画と実施をしています。	年に2回消防訓練を行い1回は夜間想定で消防署立ち会いの下、通報や避難誘導、水消火器の使い方の訓練を行い評価をもらい、独自の訓練では昼間を想定し行っています。以前自治会と合同で訓練をした事もあり協力を得られる関係作りが出来ていると共にコロナ禍以前は運営推進会議で案内や報告をし、地域の訓練にも利用者に参加しています。備蓄も3日分準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様に対し、親しく接しても人生の大先輩である事を忘れず敬い、尊厳を守る言葉かけを日頃から心がけています。	接遇マナーや認知症に関する研修を会議時に行い、利用者は人生の先輩であり尊重し、言葉遣いや対応を心がけるよう話をしています。排泄時のプライバシーや声のトーンに配慮し、呼称はその方の希望に合わせる事もあります。また不適切な場面があれば管理者から注意したり、会議で話しをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の声掛けの中で興味のある事やしたいことを感じ取り、意向の確認や自己決定できる声掛けの工夫にて希望を実現できるようにお手伝いしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気やゆったり穏やかな時間の流れの中、お一人お一人その人らしく日常生活が出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出支援が出来ない中、季節に合わせた装いで清潔な衣服を選んで着て貰えるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事を感じられる食事の提供。ゆっくりと話をしながらの食事の準備、片付けにより家庭的な雰囲気を味わっていただいています。	朝食と夕食は献立委員が利用者の希望や旬の物、暦の上での行事食を加味しメニューを作成し、夕食の1品は湯煎で提供出来る物も利用し、昼食は弁当を取りご飯と汁物を作っています。利用者はエプロンをして食材を切ったり、盛り付けや盆拭き、食器洗い等の後片付けに携わってもらっています。畑で収穫した野菜が食卓に上ったり、時々おやつの手作りやコロナ禍前は回転寿司に行く等食事が楽しみなものになるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の状態に合わせた献立による食事提供の実施。食事量、水分摂取量を記録し把握しています。		

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、声掛け誘導を行い、動作の手順説明をしながら個々の能力に合わせた支援をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様の排泄パターンを把握し、声掛け誘導し、プライバシーに配慮しつつ、出来る動作はして貰っています。	排泄チェックを介護記録に行い一人ひとりのパターンを把握し、自立している方もいますが、日中は声を掛け誘導しながらトイレでの排泄を支援しています。夜間のみポータブルトイレやおむつに変更したり、パッドの大きさなど個々の支援についてはユニット会議で話し合っています。退院後は元の状態に戻れるよう支援したりできるだけ現状を維持出来るよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト、乳製品を提供、適度な運動、体操(テレビ体操)の実施。水分摂取量の把握。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴して貰えるように、各ユニット1カ月入浴表を作成してチェックしています。ご入居者様の状況に合わせて入浴して貰っています。	入浴は週に2回午後から支援し、一人ずつ湯を入れ替え、好みの湯温で入ってもらっています。また菖蒲や柚子などの季節湯やマンツーマンで昔話をしながらゆっくり入ってもらい、希望にそってプライバシーに配慮し安全に見守る等の支援を行っています。入浴を拒否する方には声掛けの工夫や日を変えたり、シャワー浴にする等無理の無い支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、馴染みのある物を安全に配慮して置くなど安心した環境を作る。またご本人の入眠時間に合わせた声掛けと室温調整を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の服薬処方内容を職員全員が理解、把握。飲み込まれる所まで服薬確認。服薬後の袋と名前の確認、ダブルチェックの実施。薬についての自己判断はせず訪看、薬剤師に相談し助言もらう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や畑仕事などご入居者様の能力を活かした作業を声掛け見守りを実施することにより支援しています。		

ニチイケアセンターゆらの里(ひだまり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策により外出は出来ていません。面会はオンラインや条件付きの直接面会の実施、散髪は訪問理美容にて実施しています。通院もご家族様の実施を止め職員対応となっています。	コロナ禍に入り外出が難しい状況ですが、日常の中で洗濯物干しやゴミ出し、庭に出て草引きや畑や花に水遣り、収穫をしたり、ベランダに椅子を出して外気浴をする等少しでも外に出るよう努めています。感染症が収束した際には以前行っていた散歩や桜や梅、茶畑等を観に行き季節を感じてもらったり、理容室や地域の行事、また家族との外出を少しずつ再開したいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣い金は施設でお預かりさせていただきご本人様に必要なものはご家族様に連絡して対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の管理をご自分でされているご入居者様あり。息子に電話してと事務所に来られるご入居者様あり、計画作成者、管理者で対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂の壁には季節感が楽しめる壁紙を毎月作成。習字の得意な入居者様に歌詞を書いてもらっています。	毎月季節に合わせた作品を利用者と一緒に作成し壁に飾り、書写や塗り絵の作品も飾っています。リビングの配置は利用者の相性を考慮し、ベンチや廊下の奥に椅子を置き一人になったり寛げる場所を作っています。温湿度計や利用者の体感を確認しながら温度調整し、換気や手すり拭き、職員が掃除をする際にはほうきを持って一緒にする方もいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中の食事をする場所だけでなく、壁側に椅子を並べたり廊下の隅に長椅子を置いています。落ち着かれたり、入居者様同士で昔話をされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しつつ馴染みの物を置く。空調設備を整え、ご入居者様の生活スタイルに合わせて対応しています。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、使い慣れたタンスや籐の椅子、テーブル、テレビ等を持参し、大切にしている位牌や遺影を置いたり、家族の写真を飾っています。居室で日記を書いたり、好きな番組を観たり、新聞を購読している方もおりました自作の編み物のセーターを大切に着る等思い思いに過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメント、日常生活支援シートなどで状態把握。安全に配慮し、料理の下準備、野菜切り、食器洗いや食器拭き、洗濯物干し、たたみ等出来る事はして頂き自立支援を行っています。		